

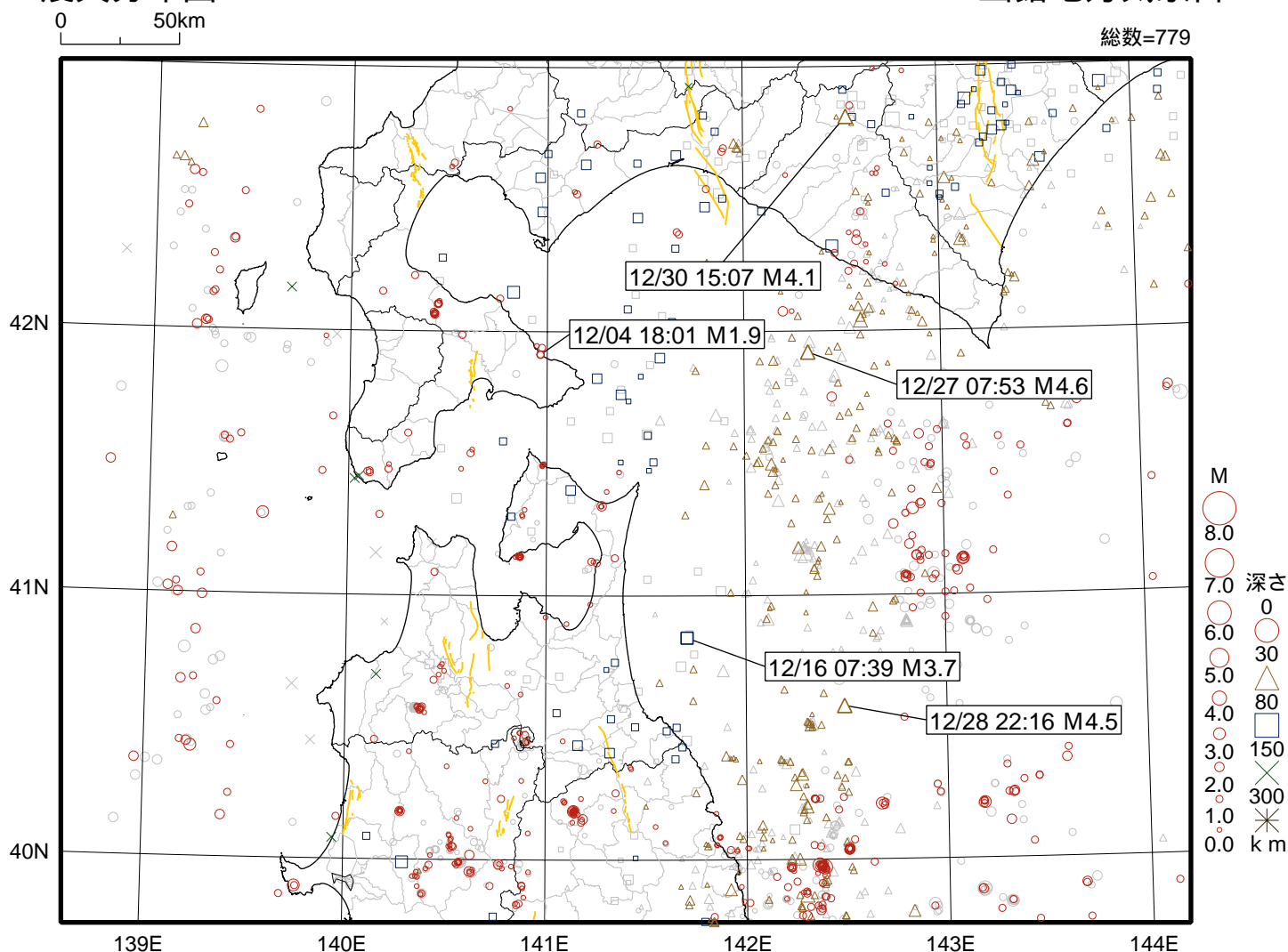
渡島・檜山地方の地震活動図

2023年12月1日～2023年12月31日

震央分布図

函館地方気象台

総数=779



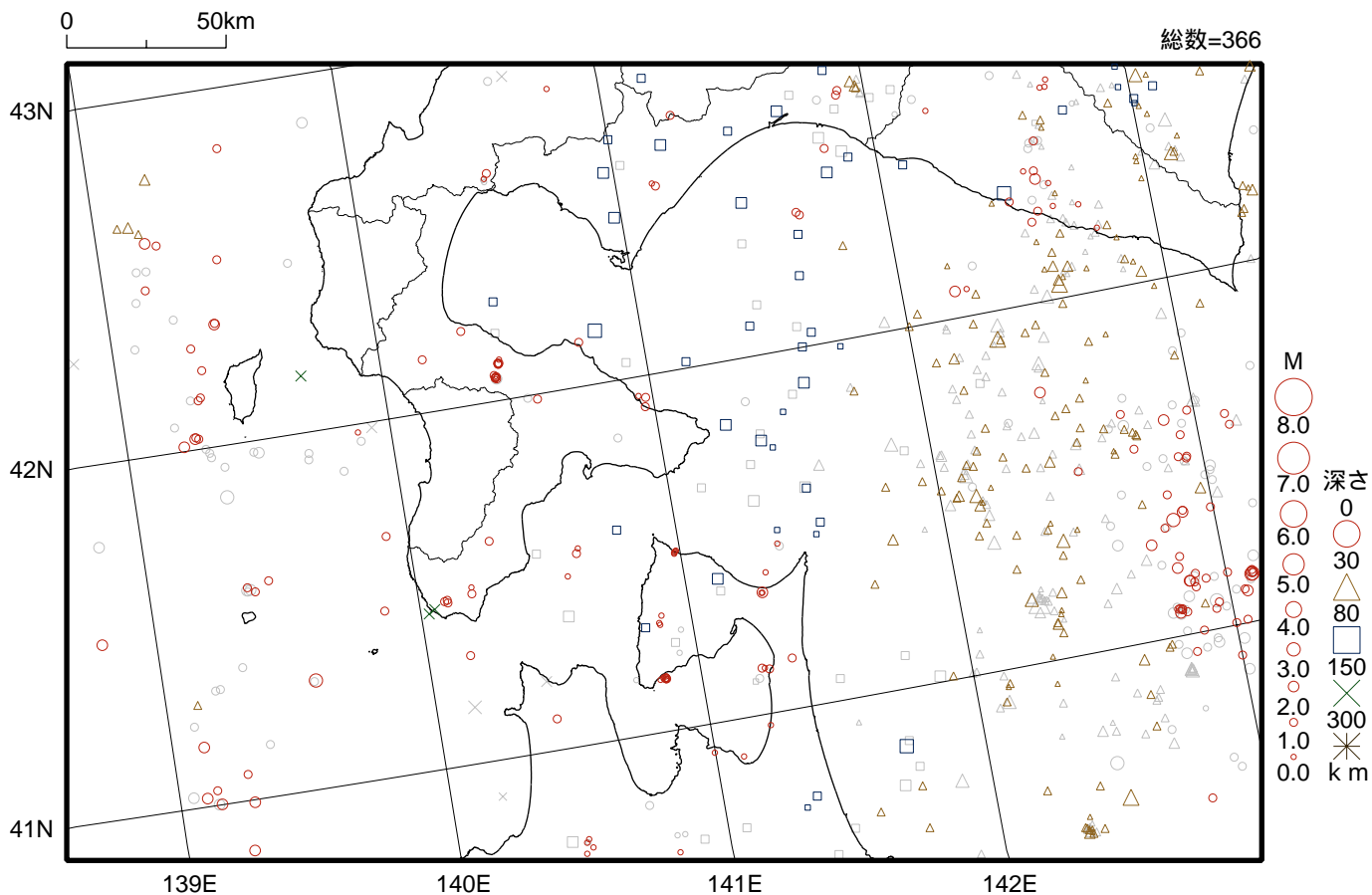
地震概況（2023年12月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回（11月は3回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

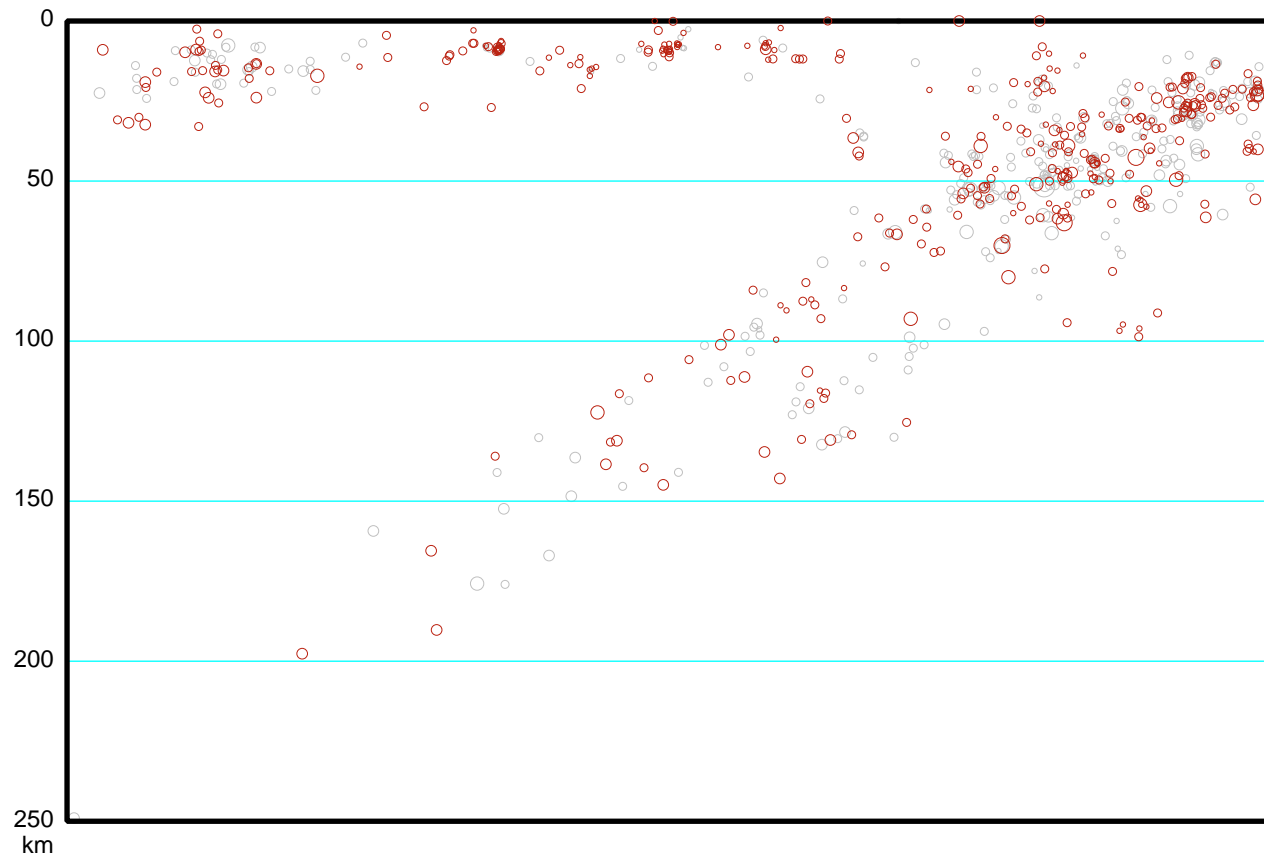
27日07時53分、浦河沖の地震(M4.6、深さ70km)により、函館市泊町、函館市新浜町で震度2を観測したほか、函館市尾札部町、函館市川汲町、鹿部町で震度1を観測しました。

2023年12月1日 ~ 2023年12月31日

震央分布図



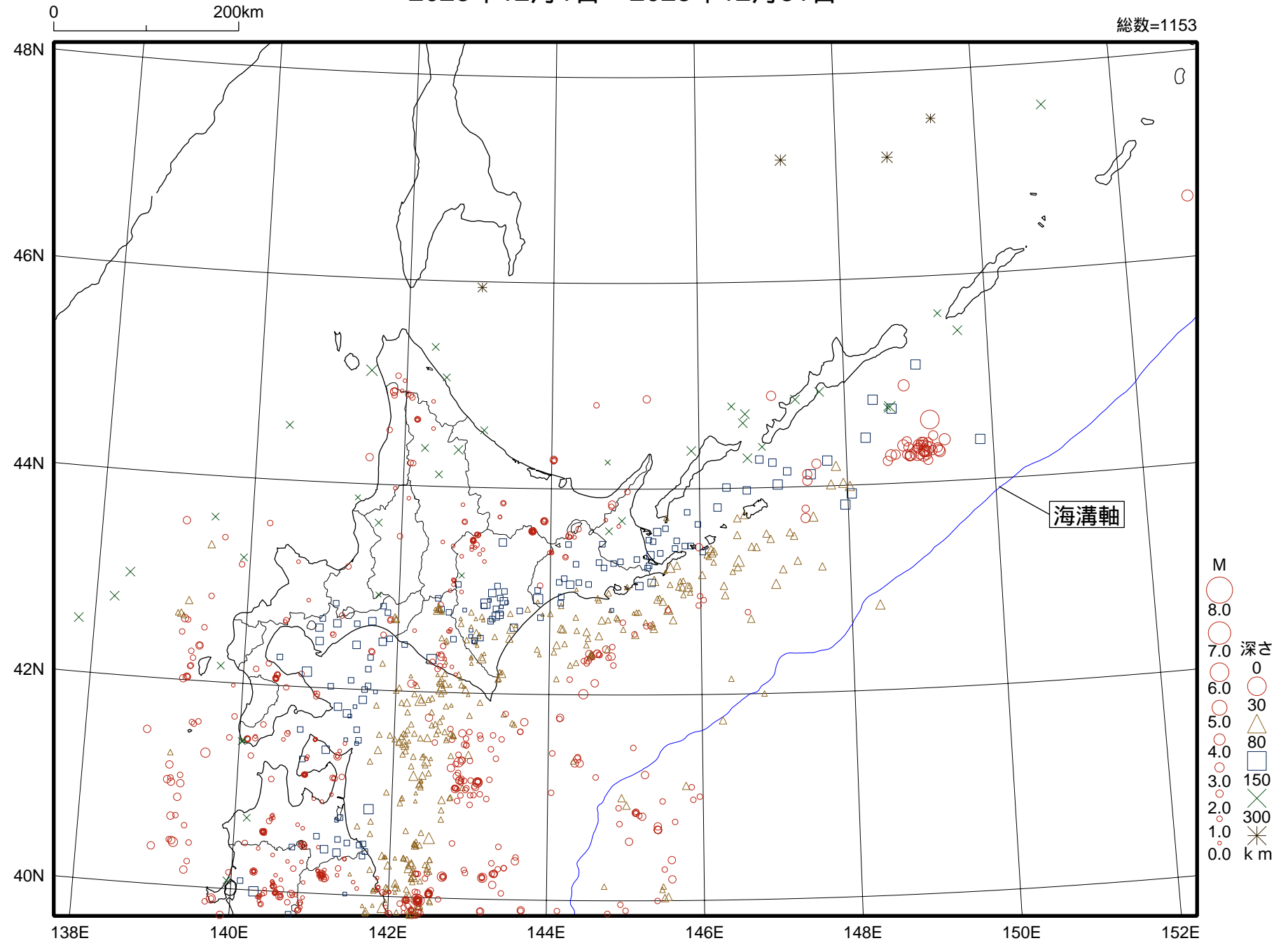
断面図



北海道の地震活動図

2023年12月1日 ~ 2023年12月31日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2023年12月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
2023年12月 4日 渡島地方	18時01分 震度 1	渡島地方東部 函館市川汲町 * (07)	41 ° 54.7 N	140 ° 57.9 E	10 k m	M1.9
2023年12月16日 渡島地方	07時39分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (06)	40 ° 50.4 N	141 ° 42.3 E	93 k m	M3.7
2023年12月27日 渡島地方	07時53分 震度 2 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (15) 函館市新浜町 * (17) 函館市尾札部町 (08) 函館市川汲町 * (12) 鹿部町宮浜 * (06)	41 ° 55.2 N	142 ° 19.4 E	70 k m	M4.6
2023年12月28日 渡島地方	22時16分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (14)	40 ° 34.8 N	142 ° 29.4 E	43 k m	M4.5
2023年12月30日 渡島地方	15時07分 震度 1	日高地方西部 函館市泊町 * (05)	42 ° 48.6 N	142 ° 31.8 E	35 k m	M4.1

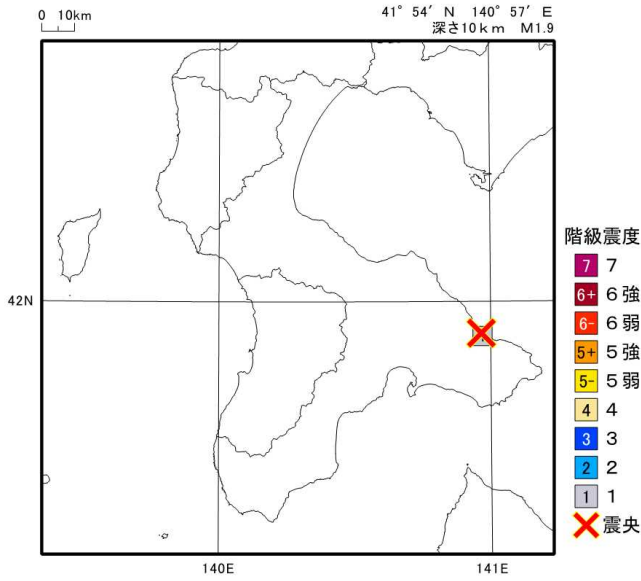
* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

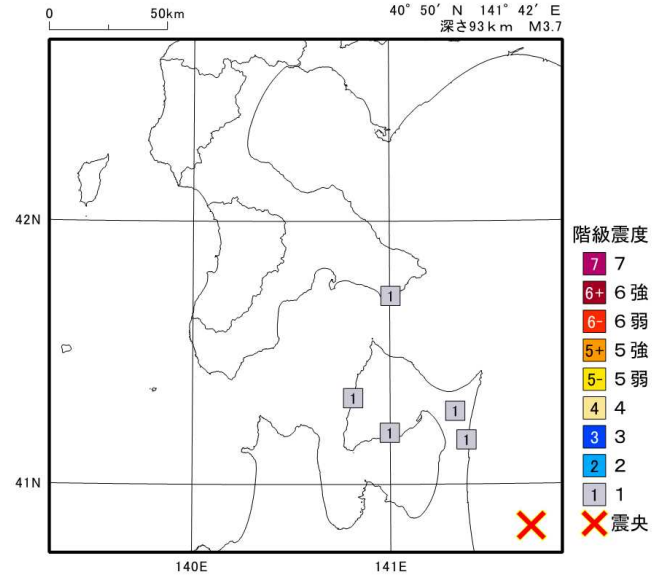
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

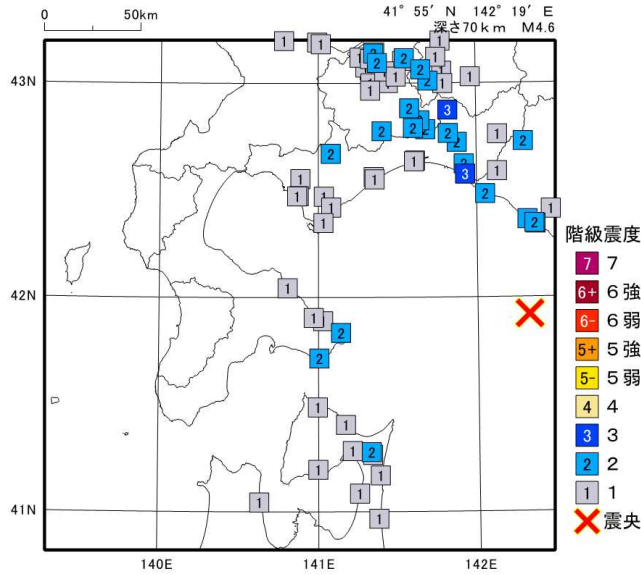
2023年12月4日18時01分 渡島地方東部の地震の震度分布図



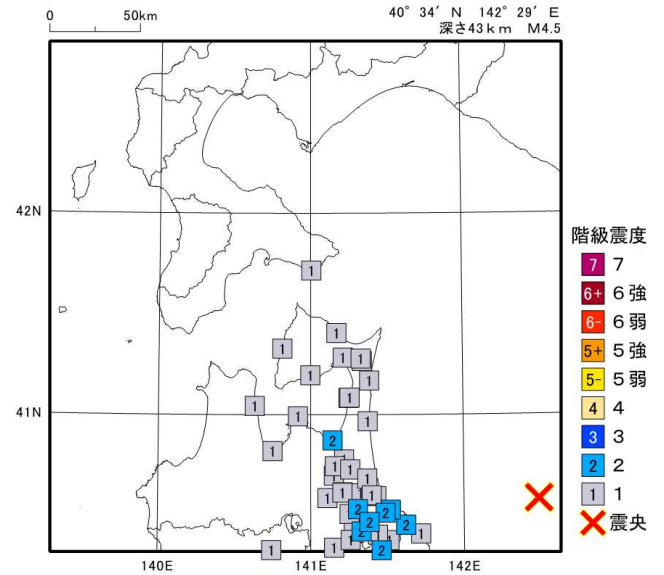
2023年12月16日07時39分 青森県東方沖の地震の震度分布図



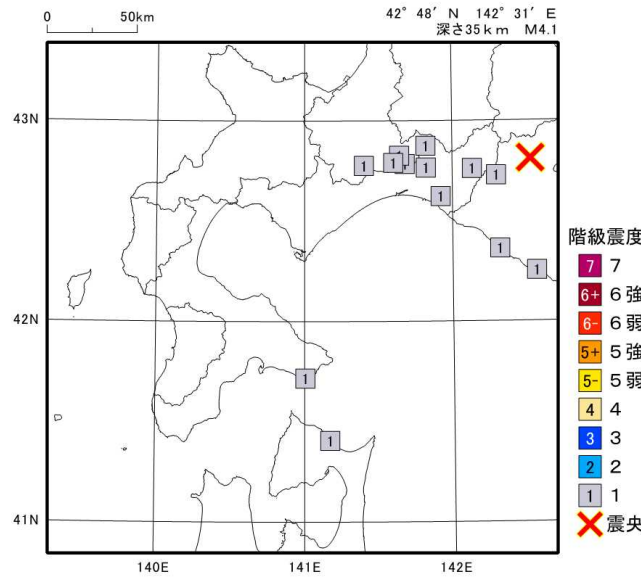
2023年12月27日07時53分 浦河沖の地震の震度分布図



2023年12月28日22時16分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2023年12月30日15時07分 日高地方西部の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政区・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～冬の地震・津波への備え～

発生が切迫している日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・大津波をはじめ、冬に大地震が起こると、強い揺れや津波の被害に加え、雪や寒さによるリスクが増大します。怪我をしたり、命を失うことなど無いよう、冬の大地震や津波には以下の点に注意して備えて下さい。

1. 雪や凍結路に対する備え

屋根に多量の雪が積もっていると、地震の揺れにより、屋根から落雪したり、雪の重みで家屋が倒壊したりする恐れが大きくなります。落雪は人を巻き込む危険があるほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、十分に注意しましょう。また、山沿いや傾斜地の雪崩危険箇所では、雪崩にも注意してください。

冬季に地震・津波から避難する場合、路面の積雪や吹雪などにより時間がかかります。避難場所までの経路は事前に確認しておきましょう。路面が凍結していると滑りやすく、避難の移動中に転倒して負傷する恐れもあるため、路面状況をよく確認し慌てず避難しましょう。



2. 火災に対する備え

暖房を使っている冬場に地震が発生すると火災のリスクが高まります。転倒時の自動停止機能があっても、停電から復電すると再起動したり、損傷した電気配線から漏電したりして出火する「通電火災」に注意が必要です。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにして下さい。避難の際は、ブレーカーを切ってガスの元栓を閉めるようにしましょう。地震を感知して自動的に電気を遮断する感震ブレーカーを設置することも有効です。



3. 寒さへの備え

地震で電気やガスが止まり、普段の暖房器具が使えなくなるかもしれません。こんな時にも使用できるポータブルの暖房器具があると安心です。また、避難時に低体温症にならないため、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなども用意しておきましょう。冬季は身支度に時間がかかるので、これらは玄関などにまとめて用意しておくといいでしょう。



4. 雪についての情報

気象庁ホームページでは「今後の雪」の情報を提供しています。積雪の深さと降雪量の分布について、各地の24時間前からの状況と6時間先までの予想が地図上で確認できますので、避難路の確保等にご活用ください。

「今後の雪」 <https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>

